

2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2021/9/30

団体名	NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこもも		活動タイトル	妊婦期から地域とつながる事業					
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■ 活動風景					
●望ましい社会状況（ビジョン）	妊婦期から産後のお手伝いがいない人、子育てがしにくい、こどもの生活がづらい、分からない方にも頼れる身内以外の人とのつながりを作っていく。育児を通して自分の価値や子どもとの生活のたのしさに気づいていただく。子供を育てることは重要な役割だと気づいてもらい更に楽しめるようになる。複数の視点に気づいていただけるような関わりをしてゆく。また次のお子さんを持ちたいと思える、産んでもいいかなと思えるような育児仲間とつなげ子どもを産んでよかったと思える人を増やす			<div data-bbox="2371 365 2852 831" data-label="Image"> </div>					
●団体の社会的役割(ミッション)	公的機関のターゲットからは抜け落ちがちで、普通家庭と普通の親子とされている方たちと関わる。相談とまでいかない小さい疑問などの解決をお手伝いするとともに、同じ子育て仲間として地域にいる事。子育ての出発地点での迷いや心配事に寄り添い、お母さんが自信をつけて育児をやっていけるようにする、家族の力をつけていけるようにサポートすること。家族が地域の力になるような働きかけや、言葉かけを行う。自分でやっていけるという自信をつけてもらう						実習中の調理		
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●人的資源：平日日中に時間がある、人との出会いを楽しみ、人のよい所を見つけれり、勉強する事が苦ではない、困難が来た時にどう乗り越えられるかを考えられる方、安定的に活動を行なっている方 ●物的資源：企業との契約。社員への福利厚生的な利用方法など ●活動資金：会費、寄付（個人・法人）委託事業や企業とのパートナー契約 ●情報：子育ては誰かの助けも必要と認識される。たくさんの方の手を借りながら育児のスタートを切ると楽になれることがあるということが皆さんに伝わっている状態、1つの仕事として確立されていること 								
■ 活動報告				■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)					
<p>●ヘルパー研修のオンライン化 今までは対面で講師1人で行っていた研修をオンライン化した。内容は31コンテンツを作成。受講者の進捗状況も管理画面から把握できるように設計。研修を受講したい人が場所や時間を気にせず受けられるようになった。</p> <p>既に活動しているスタッフも振り返りで見られるようにし、どこまで視聴したかなどの記録ができるようにした。調理実習について当初は対面の予定だったがオンライン化した。</p> <p>●チラシ配布（オンライン研修の案内） ヘルパー募集のチラシを作成し、対象地区（青森市・弘前市・三沢市）でのチラシ配布を行った。配布先は主に市の施設や幼稚園等の保護者に向けて配布。 その他の告知はHP、Facebook、Instagramなどでも随時投稿した。</p> <p>●産前産後ヘルパー活動 妊娠から産後のご家庭を訪問し、調理、掃除、洗濯、沐浴介助などをお手伝いする。その家庭によって内容や利用の期間は異なるが、子どもが1歳になる日までの間、体調が回復まで利用可能としている。</p> <p>●スタッフ育成の為に研修（ステップアップ） 養育訪問支援についてさらに理解を深めるためのオンライン研修4コンテンツを作成した。</p>				<p>●ヘルパー研修のオンライン化 研修の受講者内訳 青森地区目標5名→実際3名、弘前3名→4名、三沢・八戸・十和田3名→2名、目標11名→実際9名、講座修了した方 8名（1名辞退） そのうち、当団体にヘルパー登録した人が8名中3名であった。コロナの感染状況が深刻化するなか、感染リスクを考慮し、ヘルパー活動を控える方が5名いたため、担い手育成については目標の10名を大幅に下回った。</p> <p>●チラシの配布先 青森市約130ヶ所、弘前市40ヶ所、三沢市20ヶ所 チラシ4名、HP2名、Facebook3名、Instagram2名からの応募</p> <p>●産前産後ヘルパー活動 ヘルパーが3名増えたことで、受け入れ可能な家庭数が増えた（1日3人×3件）</p> <p>●スタッフ育成の為に研修 現在活動しているヘルパーの中で、養育訪問支援に関わっているスタッフ4名に、ステップアップ研修を受講してもらった。事業をより深く理解し、自信をもって活動を行える、さらに心構えが出来た、心境や対応の変化などを感じてもらった。事業の委託先である市役所の担当課にも研修の内容を伝える事が出来て、共通認識を持つことができた。</p>			<div data-bbox="2371 1016 2852 1283" data-label="Image"> </div> <p>月1回のヘルパーミーティング 各家庭の状況や内容の申し送りなどをします。</p>		
				■ 望ましい社会状況を達成するための課題					
<p>●オンライン講座構築に関する知識、オンラインツールの使い方、編集作業ノウハウが得られた。今回初めて事業を今まで全く知らない方に向けた募集を行い、問い合わせの段階から様々なタイプの方がいて、向き不向きなどを伝えなければいけない場面やこちらからお断りする場面もあった。色々な方がいて、それはとても勉強になった。 コロナの影響を受けて、これまでの方法通りに行うことができず、計画をかなり変更せざるをえなかったり、思っていたようにすすまらなくなったりした事で、臨機応変に対応する事や、同時に他の案もいくつか立てておくなどの準備をするようになった。</p> <p>●ICT活用力向上をめざした取り組み ・団体内でオンラインミーティングを取り入れ、業務の効率化を行い、移動のための時間と交通費の削減にもつながった。 ・FacebookとInstagramを連動させたり、予約投稿を設定したりできることが増えた。 今後さらに業務効率化の為に出来ることがあれば、取り入れていきたい</p>				<p>妊婦期から産後のお手伝いがいない人や子育てがしにくい方などに今ある事業で具体的支援をしていけるのが一番良いと思っている。 コロナの状況で在宅の父親が増えていたり、普段の勤務が短縮、出張が全くなって帰宅が早くなっているのにサポートの依頼家庭数は減る事はなかった。むしろ増えているのが気になる。 2021年6月、男性が育児休業を取得しやすくなる制度を定めた、「育児・介護休業法」改正法が可決され、出産直後の育児のスタート時期とあわせて男性が育児休暇を取得しやす環境整備がととのえられたが、利用者なかには、夫がいることで「逆に休まらない」、という妻の意見も多々ある。父親の育児休暇は何をするためにあるのかについて、伝えなければいけないのではないと思う。 妻の妊娠期から産後、何のためにどうい事が必要であり、そのやり方はどうなのかなどを夫婦で共有する方法や、出産後自宅に戻った妻が体調を回復して行くまでの間、何を具体的にやるのか（調理、掃除、洗濯、沐浴、その他身の回りの事）を理解し行動できるよう夫（父親）に働きかける、新たな妊婦～産後家庭の家族支援を考案したい。</p>			<p>この1年間の活動を通じて 研修のオンライン化、新規スタッフ増員 を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>・時間と場所に縛られず学びたい場所で学ぶ事が出来た。以前よりもタイムリーに研修を受けられる。進捗がわかりやすい。再度学びたい箇所、確認しやすい箇所に戻る事が出来るなどの意見を頂いている</p>		